

第1回 国際言語教育シンポジウム <対話能力育成のための言語教育>

対話能力育成のための新しい英文法

A New Perspective on Grammar of the English Language for Communicative Language Teaching

教師と研究者の協同により、「知識の産地直送」を実現し、 子どもたちのより良い教育に貢献する

子どもたちの学力の低下や格差が話題になって久しい状況です。言うまでもなく、子どもたちが学ぶ環境を整えていくことと共に、教える・伝える内容を吟味して洗いなおし、質的向上を図ることが非常に重要な課題となります。慣習化されている教授内容をよく観察してみると、学問的な観点から見えて来る問題や改善点は少なくなく、考えさせられる状況が色々あります。しかし、このことについて、異なった立場から積極的に議論する場が少ないのが現状です。

この集まりでは、ことばの学び、特に英語教育を中心に、子どもたちが受ける知識内容について、様々な立場から話題提供と問題提起をします。言語研究及び教育実践の双方の調和を指向する立場から、教師、研究者、教育関係者、言語教育に関心のある皆様に広く参加を呼びかけます。改善点や課題について、一緒に考え、行動してみませんか。

なお、IT技術と研究・教育の関連について、技術者からの話題提供が予定されています。

特別基調講演

講師：Professor Geoffrey K. Pullum (University of Edinburgh)

演題：Teaching Grammar and Teaching Language

Pullum教授は、ロンドン大学においてPh.D取得後、ロンドン大学(ユニヴァーシティ・カレッジ・ロンドン)、カリフォルニア大学(サンタクルーズ校)などを経て現在エディンバラ大学言語学科長。専門である言語理論、認知科学の基盤を活かした英文法書、The Cambridge Grammar of the English Language (2002, Cambridge University Press)はアメリカ言語学会のLeonard Bloomfield Book Awardを受賞した。その学生版は、教科書としての採用も多く、英語教育を目指す人々の必読書。

国際的規模で研究・教育に精力的に活動する中、2009年に名誉ある英国学士院の一員に選ばれた。特別基調講演では、外国語活動と文法知識のあり方に一石を投じる。



日時

2010年2月20日(土)

開場13:30 開始14:00 (~19:10)

場所

グランキューブ大阪 特別会議場(12F)

大阪市北区中之島5-3-5 1 TEL:06-4803-5555

参加費

無料

資料代:1000円 懇親会費別途

プログラム

特別基調講演 14:20~ Teaching Grammar and Teaching Language

Geoffrey K. Pullum (エディンバラ大学)

話題提供 15:10~ 言語知識とことばの学びについて考える

有働眞理子(兵庫教育大学) 菅山謙正(京都府立大学) 渡辺勉(拓殖大学)

谷明信(兵庫教育大学) 坂東洋子(兵庫県立星陵高校)

Julian Neale(ブリティッシュ・カウンシル) 西原由実(デジタルデータデザイン株式会社)

講演 18:00~ 日本語助詞を通して学ぶ英語:コピュラ文のより深い理解へ向けて

西山佑司(明海大学)

議論 18:30~ 講演者、話題提供者、参加者によるディスカッション

※懇親会(情報交換の場)を予定しております。講演者と親しく話ができる機会ですのでぜひご参加ください。

シンポジウム参加のお申し込みは国際言語教育シンポジウム公式HPで受け付けております。

【国際言語教育シンポジウム公式HP】 <http://www.manavimap.com/> 【MAIL】 support@manavimap.com (事務局:兵庫教育大学 有働眞理子研究室)

【主催】 MANAVI M.A.P. (MANAVI Mobile Academy Platform) 学術研究を教育に反映させるための産学連携プロジェクト 代表:有働眞理子

【協賛】 MCF(一般社団法人モバイル・コンテンツ・フォーラム)

【後援】 英語語法文法学会 関西言語学会 兵庫教育大学 兵庫県教育委員会 京都府教育委員会 ブリティッシュ・カウンシル ケンブリッジ大学出版局